

ICR変更事項 2013 年度版

601. 4. 10 主審の任務及び権利

- レフリーはドロウの指揮をとる
- ~~= コースセット終了後直ちに、単独あるいはジュリーメンバーと共に、コースインスペクションを行う。~~
- ~~= 旗門を取り除いたり追加したりして、コースを変更する。主審が単独でコースインスペクションを行った場合、主審の決定が最終決定である。コースセッターがこのコースインスペクションに参加していなかった場合、コースセッターにこの変更を知らせなければならない。~~
- ルール違反や不正旗門通過について、1 本目終了後及び 2 本目終了後に、スタート審判、フィニッシュ審判及び競技役員から報告を受ける。
- 各ラン終了後直ちに、主審決定報告書をチェックし、署名した上で公式掲示板に公示する。また、フィニッシュハウスには、失格選手氏名、不正発生旗門ナンバー、失格制裁の原因となった不正を記録した旗門員氏名、及び正確な失格時間を記載したリストを掲示する。
- 特殊なケースやジュリーメンバーの間に意見の相違があった場合、選手が重傷を負った場合は、FIS に報告書を送る。

607. 3 国際競技会区分

U18(ジュニア I)の 1 シーズンの FIS ポイントが算出される最大のスタート数は 25 回で、それ以降スタートしたレースの全てのリザルトから削除されるため、FIS ポイントは計算されない。~~(2012/2013 シーズンは有効ではない)~~ スピード系種別の滑降とスーパー-G、スーパーコンビに参加の場合は規制は設けない。クラシフィケーション小委員会はこのルールにおける違反行為の情報収集を行い FIS 理事会に報告する。

608. 5. 1 各国クォータは、U14(K1)では最大 4 名、U16(K2)では最大 6 名までとし、一国全体で、最大 10 名までとする。

各カテゴリーで、各性別毎最大 4 名まで登録できる。開催国には、ダブルクォータの権限が付与され、その場合、開催国全体では最大 20 名の競技選手となる。複数のレースがある大会の場合、クォータはそれぞれのレースではなく、大会に適応する。

614. 2. 3 選手が止まった後の継続禁止

選手が完全に止まった場合(例:転倒)、その選手は、前の旗門やその後の旗門を続けることはできない。この禁止は、固定したスタートインターバルがあるすべての種目(DH、SG、GS)に有効である。その選手が後続次の選手の滑走を邪魔しない、または、次の選手に抜かされない限り、スラロームは例外である(661.4.1)。

623. 1. 3 選手がイエローフラッグを振られたとき、選手は直ちに止まらなければならない。

~~選手がイエローフラッグにより止められた場合、~~ジュリーの判断を前提に再レースをする権利がある。ジュリーは、滑降の試合またはトレーニングランのリストから、最後の選手よりも前に再レースが行われる事を念頭に置かなければならない。(第 705.2 条、第 705.3 条参照)

623.2.7 「イエロー~~ズ~~ンフラッグ」内のを持った役員による滑降の中断（第 623.1.3 条参照）

801.2.3 旗門の幅は、4m 以上 6m 以下でなければならない。

連続する旗門のターニングポール間の距離は 6m 以上 13m 以下（すべてのカテゴリーに有効）でなければならない。

例外 チルドレン競技会

U16 (K2) — ~~12m~~以下 7mから11m

U14 (K1) — ~~10m~~以下

コンビネーション内（ヘアピンやヴァーティカル）旗門の距離は、0.75m 以上 1 m 以下でなければならない。ヘアピンやヴァーティカルコンビネーション内の旗門はストレートラインでセットされなければならない。ディレードゲートは、ターニングポール間の距離は、12m 以上 18m 以下（チルドレン競技会 15m）にしなければならない。

901.2.4 大回転は次の通りセットしなければならない（小数点以下を切り上げもしくは切り捨てた数を方向転換数とする）：

- 標高差(メートル) の 11~15%。
- U16-U14 ~~チルドレン~~の場合は 13~~~17~~18%。
- エントリーリーグレース (ENL) : 標高差の 13~15%

~~1226.3.3 助けを求めてスタートゲートを使用する。~~

1229 計時 (Timing)

~~スタートが同時なので、フィニッシュ時の両選手のタイム差のみ記録する。数個の光電管と自動印刷機が作動し、最初にフィニッシュした選手のタイムが「ゼロ」となり、次にフィニッシュした選手と最初の選手とのタイム差が 1000 分の 1 秒単位で算出される。~~

パラレル種目において 2 名の選手が競い合う場合、(フィニッシュ時の) タイム差、または、個別の (スタートからフィニッシュまでの) 滑走タイムを測定することができる。滑走タイムが測定される場合、タイム差は、それらの滑走タイムから計算される (1 / 100 秒)。ジュリーは、適切なチーム・キャプテン・ミーティングで、どちらの計時方法が使用されるか、連絡しなくてはならない。

特別な種目の場合、滑走時間は、順位、タイブレーク、賞の授与を決定するために使用することができる。